

令和5年度冬 子ども図書館おすすめ本

★中高生におすすめの本★

★『バンビ 森の、ある一生の物語』

フェーリクス・ザルテン/作 上田真而子/訳 岩波書店



森に生まれた子鹿のバンビは、お母さんについて育っていく。草原をかけ、色々な動物とふれあう喜びを知るが、やがて、冬の寒さや森の動物をおびやかす狩猟者の存在、身近な動物の死を知るようになる。母と別れ、恋を経て、バンビが求めた道は—。子鹿のバンビに「ひとりであることができぬのか」と問うた古老の鹿にあこがれ導かれながら、森で生きていく知恵と勇気を身につけ成長していくバンビの一生の物語が、リアルに詩的に語られる。

★『この川のおこうに君がいる』

濱野京子/作 理論社



東京の高校に進学した梨乃^{りの}。この学校を選んだのは、三年前の東日本大震災の被災者^{ひさいしゃ}であることを知られたくないためだった。梨乃はクラスメイトの陶子^{とうこ}と念願の吹奏楽部に入部する。だがそこで出会った遼^{りょう}が、福島からの被災者だと堂々と話すことに違和感をおぼえる……。兄の死をかかえ“かわいそうな被災者”とあつかわれ、自分の気持ちを抑えていた梨乃。一方、遼のかかえるものは——。梨乃の心が、遼や陶子と出会い、アルトサックスの音を好きになる時間の中で、やわらかくほどけていく。

★『雪とパイナップル』

鎌田 實 / 著 唐仁原 教久 / 画 集英社



チェルノブイリ原発事故で放射能を浴びてしまった、ベラルーシの子ども達。医師である著書は、病気になる子ども達の治療支援のため、日本からベラルーシへ行く。そこで彼は、白血病になった少年に出会う。数年後、少年の家族に会うため、著者は再びベラルーシへ行くと、そこで聞いたのは、少年と日本から来た若い看護師との、心の交流だった……。国や時を超えて、互いの心に残ったものは——。

美しい雪の画の中に描かれたノンフィクション絵本。

